

高松立太田南小学校 体力向上プラン

人間性豊かで 心身ともに健康な、実践力のあるたくましい子どもの育成

めざす児童像—たくましく考える子 たくましく判断する子 たくましく行動する子—

【本校の課題】

- スポーツや運動遊びの経験が少ない児童が多い。休み時間や昼休みにボールや遊具を使った外遊びを行う児童とそうでない児童の差が大きく、運動に親しむ習慣が二極化傾向にある。
- 児童数に対して運動できるスペースが少ない。
- R7年度の新体力テストの結果については、県・市平均（R7年度）と比較して低い項目が多く、特に握力、20mシャトルランにおいては、ほとんどの学年で県・市平均より低い数値になっている。

【現状】

休み時間等には元気よく運動場で遊んでいる姿が見られるが、学年や人数が固定化されている。昼休みには、全体遊びをしているクラスとそうでないクラスがあるため、運動経験に差が生じている。また、多くの子どもたちは、ボールを使った遊びや鬼遊びが中心で、遊具などで遊ぶ姿は比較的少ない。

【取組み】

〈環境整備〉

①ソフトドッジボールの充実

苦手な児童やボールに恐怖心がある児童でも楽しめるように、ソフトドッジボールを購入する等体育備品を充実させ、児童の運動に対する抵抗感を低くし、様々な運動に親しめるようにする。

②新しいマットの購入

きれいなマットを使うことで、児童の意欲の向上を期待する。また、マット運動での場の設定が作りやすいようにする。

〈委員会の充実〉

①運動講座の実施

全校生に安全に運動を楽しんでもらうために、体育委員会で考えた講座を開催し、少しでも運動を楽しんでもらえるようにする。
（例：縄跳びの練習会、雲梯チャレンジなど）

②芝生の草抜き

全校生が安全に外遊びができるように、定期的に草抜きをする。

〈意欲付け〉

① カードや掲示の充実

新体力テストの上位者を称賛する場を設定したり、振り返りカードなどを作成したりすることで、友だちと競い合ったり、昨年度の自分と比べたりしながら取り組めるようにする。

② クラスマッチの実施

昨年度と同じようにクラスマッチを実施し、球技もしくは縄跳びでのクラスマッチを実施する。体力向上だけでなく、全力で取り組む態度を育てたり、お互いを応援し合うことで学級づくりにも生かしたりできるようにする。

③ 授業での教師の言葉かけ

運動が苦手な児童に対して、取り組みやすい教材を用意したり、スモールステップでの指導をしたりと、運動に対する抵抗感を減らすような指導をする。

【目標】

- R9年度までに、新体力テストの半分以上の項目で、全国平均以上を目指す。
- 新体力テストの握力の数値の平均を各学年1kg以上upを目指す。
- 運動やスポーツに親しむ経験ができる場を設けて、運動が楽しいと答える児童を増やす。